様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：２３９０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１２１９９

研究課題名（和文）新卒訪問看護師育成・支援のための長期的な看護教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a long-term nursing education program for fostering and supporting new graduate visiting nurses

研究代表者
秋山　明子（AKIYAMA, AKIKO）

名古屋市立大学・看護学研究科・教授

研究者番号：００６３３８６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：新卒者が訪問看護師として就職できる看護基礎教育のあり方を検討した．新卒訪問看護師と熟練訪問看護師を対象としたインタビュー調査，訪問看護師を対象とした無記名自記式アンケート調査を行った結果，新卒訪問看護師が感じていた看護実践上の困難は(1)療養者のニーズを把握する能力，(2)日常生活援助を提供する能力，(3)診療の補助技術を提供する能力，(4)協働していく能力であることが示された．熟練訪問看護師が新卒の訪問看護師に求める能力は，(a)礼儀正しい態度，(b)看護師国家試験合格レベルの基本的な知識と看護技術の習得，(c)患者や家族に配慮できること，(d)基本的な看護技術の実践であることが示された．

研究成果の学術的意義や社会的意義
訪問看護師のキャリアパスを見据えた看護基礎教育と卒後教育が重要であると提言されているが，新卒訪問看護師と受け入れ側である熟練訪問看護師の双方の視点から，新卒訪問看護師育成・支援のあり方を検討した研究はなかった．
本研究は，新卒訪問看護師が看護実践で困難を感じていること，熟練訪問看護師が新卒訪問看護師に求めている能力を検討することで，看護基礎教育に取り入れる必要がある体制(看護学生が理論と実践を統合するのに役立つモデルを開発すること，患者や家族に対する礼儀作法等を学修する機会を設けていくこと)を示せた点において，学術的意義や社会的な意義があると考えられた．

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine the components that constitute necessary qualities for new graduate visiting nurses. We found that new graduate visiting nurses had difficulties with: (1) understanding client needs, (2) providing daily-life care, (3) providing medical assistance, and (4) collaborating with other stakeholders. Our study identified four qualities that experienced visiting nurses felt were required for new graduate visiting nurses: (a) being well-mannered, (b) acquiring basic knowledge and skills, (c) giving consideration to the patient and their family members, as well as (d) actually practicing trained concepts in nursing education. Our findings indicated that nursing education should focus more on developing appropriate bedside manner and that it may be useful to develop tools such as virtual reality simulation to translate and apply new nurses' theoretical knowledge and skills to clinical contexts.

研究分野：地域在宅看護学，公衆衛生看護学

キーワード：訪問看護　訪問看護ステーション　訪問看護師　新卒訪問看護師　看護教育　看護学生　在宅ケア　在宅看護

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

在宅チーム医療を担う人材の育成において，訪問看護師の確保と定着は重要な課題の一つである．平成 24 年文部科学省先導的大学改革推進委託事業「高齢社会を踏まえた医療提供体制見直しに対応する医療系教育の在り方に関する調査研究」は，訪問看護師のキャリアパスを見据えた看護基礎教育と卒後教育が重要であると提言したが，小規模の訪問看護事業所では新卒者を受け入れる卒後教育体制を組むのは難しい点が多い．また，病院看護が主軸となっていた看護基礎教育カリキュラムは，地域包括システムに移行する方向性にあるが，新卒者が訪問看護師としても就職できる看護基礎教育のあり方については，十分検討されてはいないのが現状である．

２．研究の目的

訪問看護師のキャリアパスを見据えた看護基礎教育と卒後教育が可能になる新卒訪問看護師育成・支援のための長期的な看護教育プログラムの開発に資する基礎資料を得ることを目的として，以下の点を明らかにすることとした．

(1) 新卒者が訪問看護師としても就職できる看護基礎教育のあり方に関する検討
(2) 小規模の訪問看護事業所でも新卒訪問看護師が育成できる卒後教育体制の検討

３．研究の方法

(1) 新卒訪問看護師を対象としたインタビュー調査

新卒で訪問看護事業所に入職した新卒訪問看護師の調査協力者 11 人を対象に，訪問看護事業所に入職して直面した看護実践上の困難性は何かについて,2018 年 5 月～11 月に半構造化面接を行った.倫理的配慮として,畿央大学大学倫理委員会の承認を得て実施し(承認番号：H29-24-1),対象者の署名同意を得てインタビューを行った.看護実践上の困難性を感じていない 1 人は除外し,インタビュー内容は SCAT（Steps for Coding and Theorization）で分析した.

(2) 熟練訪問看護師を対象としたインタビュー調査

一般社団法人全国訪問看護事業協会の正会員である訪問看護事業所に勤務する訪問看護師のうち,看護師経験年数が 15 年以上の 9 人を対象に,新卒者が訪問看護事業所に就職するにあたり,卒業時にできていなくても問題ないこと，できていないと困ること，新卒で訪問看護事業所に就職する看護学生が卒業までに習得しておきたい看護実践能力は何かについて,2018 年 3 月～7 月に半構造化面接を行った．倫理的配慮として，畿央大学大学倫理委員会の承認を得て実施し(承認番号：H29-24-1),対象者の署名同意を得てインタビューを行った.インタビュー内容は主題分析法（Thematic Analysis）で分析した.

(3) 全国の訪問看護事業所等に勤務する訪問看護師を対象としたアンケート調査

2019 年 2 月現在，一般社団法人全国訪問看護事業協会の正会員である訪問看護事業所 5,869 施設のうち，無作為抽出された 1,586 施設に勤務する訪問看護師 1,586 人と 2019 年 2 月現在，独立行政法人福祉医療機構 WAM ネットに公開されている全国の小規模多機能型居宅介護施設 414 施設に勤務する訪問看護師 414 人を調査対象として，無記名自記式質問紙による郵送調査を行った(調査期間：2019 年 8 月～9 月)．調査内容は訪問看護師に関する事項(基本属性，経験年数，経験した看護技術と主観的到達度，GDS 等)，新卒訪問看護師に関する事項(新卒者が卒業までに習得しておきたい看護実践能力，必要だと考えられる卒後教育体制，新卒者の受け入れに対する意識等)であった．統計解析は SPSS for Windows J. ver.20.0 を用いて，χ^2検定，t 検定，多変量解析を行った.

４．研究成果

(1)研究の主な成果

新卒訪問看護師を対象としたインタビュー調査により明らかとなった新卒訪問看護師が感じていた看護実践上の困難は,(1)療養者のニーズを把握する能力,(2)日常生活援助を提供する能力,(3)診療の補助技術を提供する能力,(4)協働していく能力であることが示された．熟練訪問看護師を対象としたインタビュー調査，無記名自記式アンケート調査により明らかとなった熟練看護師が新卒の訪問看護師に求める能力は，(a)礼儀正しい態度，(b)看護師国家試験合格レベルの基本的な知識と看護技術の習得，(c)患者や家族に配慮できること，(d)基本的な看護技術の実践であることが示された.

本研究では，新卒訪問看護師が看護実践で困難を感じていることと熟練訪問看護師が新卒訪問看護師に求めている能力を検討したことにより，看護師国家試験合格レベルの基本的な知識と看護技術，看護基礎教育で学修した看護技術の実践は，現在の日本の看護カリキュラムでほぼ対応できているが，新卒の訪問看護師は，臨床の文脈で理論的な知識やスキルを翻訳および適用する際に困難を経験していること，熟練訪問看護師は，新卒者が訪問看護師として働くには，礼儀

正しい態度を修得しておく必要があると考えていることが示唆された.

(2)得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

超高齢社会の進展などによりわが国の医療提供体制が地域在宅へとシフトする中，在宅チーム医療を担う訪問看護師の確保と定着は重要な課題の一つである．訪問看護 10 カ年戦略(訪問看護推進連携会議，2009)では，新卒者や再就職者の積極的な採用が具体策に掲げられたが，卒後すぐに訪問看護事業所に就職する新卒者は多くない．平成 24 年文部科学省先導的大学改革推進委託事業「高齢社会を踏まえた医療提供体制見直しに対応する医療系教育の在り方に関する調査研究」では，訪問看護師のキャリアパスを見据えた看護基礎教育と卒後教育が重要であると提言されたが，新卒訪問看護師と受け入れ側である熟練訪問看護師の双方の視点から，新卒訪問看護師育成・支援のあり方を検討した研究はなかった.

本研究では，新卒訪問看護師が看護実践で困難を感じていることと熟練訪問看護師が新卒訪問看護師に求めている能力を検討したことにより，看護師国家試験合格レベルの基本的な知識と看護技術，看護基礎教育で学修した看護技術の実践は，現在の日本の看護カリキュラムでほぼ対応できているが，新卒の訪問看護師は，臨床の文脈で理論的な知識やスキルを翻訳および適用する際に困難を経験していること，熟練訪問看護師は，新卒者が訪問看護師として働くには，礼儀正しい態度を修得しておく必要があると考えていることが示唆された．本研究結果により，看護基礎教育においては,看護学生が理論と実践を統合するのに役立つモデルを開発すること，患者やその家族に対する礼儀作法等を学修できる機会を設けていくことが，新卒訪問看護師の育成・支援に資することが示された.

(3)今後の展望

新卒訪問看護師に必要な能力のうち，看護師国家試験合格レベルの基本的な知識と看護技術，看護基礎教育で学修した看護技術の実践は，現在の日本の看護カリキュラムでほぼ対応できていたが，新卒の訪問看護師は，臨床の文脈で理論的な知識やスキルを翻訳および適用する際に困難を経験していることが示された．そのため，看護学生が理論と実践を看護基礎教育に統合するのに役立つモデルの開発を目指す必要があることが示された．熟練訪問看護師が新卒訪問看護師に求める礼儀正しい態度については，看護基礎教育の中で，患者やその家族に対する適切な礼儀作法等を学修できる機会を設けていく必要性が示唆された.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 Akiyama A, Fukuyama Y	４．巻 20
２．論文標題 Expected Characteristics for New Home Visiting Nurses According to Experienced Nurses.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Asian Journal of Human Services	６．最初と最後の頁 61-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.20.61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Yumi Fukuyama, Akina Ishibashi, Koichi Shinchi, Akiko Akiyama	４．巻 17(1)
２．論文標題 Factors affecting the future employment of new graduate nurses as home-visiting nurses: a cross-sectional study in Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Journal of Rural Medicine	６．最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2185/jrm.2021-031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Akiyama A, Fukuyama Y	４．巻 21(3)
２．論文標題 Qualities required for new graduate visiting nurses: A qualitative study	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of General and Family Medicine	６．最初と最後の頁 87-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jgf2.307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Yumi FUKUYAMA, Maiko KIDO, Koichi SHINCHI, Akiko AKIYAMA	４．巻 18
２．論文標題 Medical and Care Collaboration between Nurse and Care-worker in a ‘Kantaki ’Setting: Time-Sampling Study	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Asian Journal of Human Services	６．最初と最後の頁 74-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.18.74	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akiyama A, Fukuyama Y	4．巻 21
2．論文標題 Factors influencing decision-making ability of the patient receiving home medical care	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of General and Family Medicine	6．最初と最後の頁 199-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jgf2.353	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yumi FUKUYAMA, Yuka YAMADA, Koichi SHINCHI, Akiko AKIYAMA	4．巻 19
2．論文標題 Advance Care Planning in Japan: Survey of the Primary Care Physicians’	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Asian Journal of Human Services	6．最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.19.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akiyama A, Fukuyama Y	4．巻 18
2．論文標題 Expected Characteristics for New Home Visiting Nurses According to Experienced Nurses	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Asian Journal of Human Services	6．最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 河野由美	4．巻 21(1)
2．論文標題 死の顕在化が及ぼす影響についての実験的研究：死への態度と生理学的変化	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本ヒューマン・ケア心理学会誌 ヒューマン・ケア研究	6．最初と最後の頁 39－50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 河野由美	4．巻 15
2．論文標題 アドバンス・ケア・プランニング（ACP)と死観の関連	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本仏教看護・ビハーラ学会誌 仏教看護・ビハーラ	6．最初と最後の頁 44 - 59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akiko Akiyama, Yumi Fukuyama	4．巻 21
2．論文標題 Qualities required for new graduate visiting nurses: A qualitative study	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of General and Family Medicine	6．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jgf2.307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Fukuyama Y, Akiyama A	4．巻 special issue
2．論文標題 Home-care nursing challenges for Newly Qualified Nurses: A Qualitative Study	5．発行年 2020年
3．雑誌名 International Journal of Gerontology	6．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6890/IJGE.201910/SP.0013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松川 真葵，福山 由美，中北 裕子，秋山 明子	4．巻 14(2)
2．論文標題 三重県の在宅療養支援診療所における自宅での死亡に関連する活動状況についての検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 畿央大学紀要	6．最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24482/00000018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松川 真葵，福山 由美，中北 裕子，秋山 明子	4．巻 45
2．論文標題 三重県の在宅療養支援診療所の7年間の活動状況と地域差に関する検討	5．発行年 2018年
3．雑誌名 癌と化学療法	6．最初と最後の頁 55－57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 Yumi FUKUYAMA, Yuka YAMADA, Koichi SHINCHI, Akiko AKIYAMA.
2．発表標題 Advance Care Planning in Japan : survey of the primary care physicians view
3．学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会(international session)
4．発表年 2020年

1．発表者名 ＹｕｍｉＦｕｋｕｙａｍａ
2．発表標題 Ｈｏｍｅ－ＣａｒｅＮｕｒｓｉｎｇＣｈａｌｌｅｎｇｅｓｆｏｒＮｅｗｌｙ－ＱｕａｌｉｆｉｅｄＮｕｒｓｅｓ：ＡＱｕａｌｉｔａｔｉｖｅＳｔｕｄｙ
3．学会等名 Ｔｈｅ１１ｔｈＩＡＧＧＡｓｉａ／ＯｃｅａｎｉａＣｏｎｇｒｅｓｓｏｆＧｅｒｏｎｔｏｌｏｇｙａｎｄＧｅｒｉａｔｒｉｃｓ２０１９（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 秋 山 明 子
2．発表標題 新卒者が訪問看護師として就職できる看護基礎教育のあり方に関する研究：訪問看護事業所に勤務する訪問看護師のインタビュー調査より
3．学会等名 第２４回日本在宅ケア学会学術集会
4．発表年 2019年

１．発表者名 福 山 由 美
２．発表標題 卒 訪 問 看 護 師 が 直 面 し た 看 護 実 践 上 の 困 難 性 に 関 す る 検 討 ： 内 容 分 析 の 結 果 か ら
３．学会等名 第 ２ ４ 回 日 本 在 宅 ケ ア 学 会 学 術 集 会
４．発表年 2019年

１．発表者名 福山 由美，新地 浩一，松川 真葵，秋山 明子
２．発表標題 鹿児島県在宅療養支援診療所・病院の活動状況と死亡場所の経年変化に関する検討
３．学会等名 日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 松川 真葵，福山 由美，中北 裕子，秋山 明子
２．発表標題 三重県の在宅療養支援診療所の活動状況と死亡場所に関する検討
３．学会等名 日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 秋山 明子，秋吉 久美代，加藤 由加，松川 真葵，福山 由美
２．発表標題 奈良県の在宅療養支援診療所及び在宅療養支援病院の活動状況と死亡場所に関する検討
３．学会等名 日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤 由加，福山 由美，松川 真葵，秋吉 久美代，秋山 明子
２．発表標題 大阪府の在宅療養支援診療所及び在宅療養支援病院の活動状況と死亡場所に関する検討
３．学会等名 日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 松川真葵、福山由美、中北裕子、秋山明子
２．発表標題 三重県の在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院の７年間の活動状況と地域差に関する検討
３．学会等名 日本在宅医療学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Maki Matsukawa, Yumi Fukuyama, Yuko Nakakita, Akiko Akiyama
２．発表標題 Medical home-care support activities by clinics in Japan: Develipments since 2008
３．学会等名 TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

佐賀大学医学部看護学科，福山由美研究室URL http://www.communityhealth.med.saga-u.ac.jp/ 佐賀大学医学部看護学科，福山由美研究室URL http://www.communityhealth.med.saga-u.ac.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	河野　由美 (KONO YUMI) (10320938)	畿央大学・健康科学部・教授 (34605)	
研究分担者	堀江　尚子 (HORIE NAOKO) (50598943)	畿央大学・健康科学部・准教授 (34605)	
研究分担者	栗林　伸子 (KURIBAYASHI NOBUKO) (50757698)	畿央大学・健康科学部・助手 (34605)	
研究分担者	秋吉　久美代 (AKIYOSHI KUMIYO) (90524976)	畿央大学・健康科学部・特任助教 (34605)	
研究分担者	加藤　由加 (KATO YUKA) (20782999)	畿央大学・健康科学部・助教 (34605)	
研究分担者	松川　真葵 (MATSUKAWA MAKI) (80733633)	畿央大学・健康科学部・特任助教 (34605)	
研究分担者	福山　由美 (FUKUYAMA YUMI) (40529426)	佐賀大学・医学部・准教授 (17201)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関